

研究のなまえ「小児がん経験者に対するゲーム型学習プログラムに関する研究」

文責：（舩本大輔）

どんなことを調べようとした研究ですか？	ゲーム型学習プログラムが小児がんの治療を終えて定期的に通院する患者さんに対してどのような効果があるのかを調べた研究です。患者さんのために、ゲームを楽しみながら自分の健康管理を学ぶプログラムを JCCG 長期フォローアップ委員会と公立ほこだて未来大学のみんなで作りました。プレイヤーの年齢に応じた2種類のゲームの中で、自分でキャラクターを操作しながら、入力した内容に応じた個別のストーリーが楽しめます。
どんな人に調査しましたか？	長期フォローアップ外来に通院する10歳以上の小児がん経験者の方に、1ヶ月間、ゲームを通して健康管理を学んでもらいました。「健康管理能力」「自尊感情」「晚期合併症に関する知識」について、学習前と学習後1ヶ月/6ヶ月/12ヶ月のアンケート調査をしました。
何人くらいからお答えいただけましたか？	全体で63人が学習プログラムを体験してもらい、1年間の調査を最後まで協力してくれた方は49人でした。
どんな結果でしたか？	1ヶ月間の学習プログラムの体験後、「健康管理能力」「自尊感情」「晚期合併症に関する知識」のいずれも学習前と比べて高くなったことが明らかになりました。ただ、高校生以上（AYA世代）のグループでは、学習直後をピークに「健康管理能力」と「晚期合併症に関する知識」が時間と共に低下したことも明らかになりました。
どんなことが分かりましたか？	ゲームを楽しみながら自分の健康管理を学ぶこの学習プログラムは、小児がん経験者に対して一定の学習効果があることが分かりました。一方年齢が高くなるにつれて効果が低下することから、もっと改善が必要であることも分かりました。
この研究は小児がん患者さんとどんな関係がありますか？	治療後の「晚期合併症」は、小児がん経験者の大きな健康課題の一つです。そのため、自分の病気や治療、晚期合併症について正しく理解することは、自らの健康を守る上でとても重要なものとなります。病気の理解を深めるためのこの学習プログラムは、小児がん経験者の未来にとって関係の深いものであると思います。
これからこの研究はどのように役立ちますか？	小児がん経験者が通院する全国の長期フォローアップ外来で、子どもから大人に至るまで幅広い世代の健康教育に役立てると考えています。
関係する他の専門医、診療科は？	整形外科、内分泌代謝内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、産科婦人科、泌尿器科など
詳しく知りたい場合のリンクは？	https://doi.org/10.1186/s12885-022-09359-w